

河津言のりては新の信は常念御なり

念科 五百石を以て七百石給合ふ可きは御事也

中尾盛の北の詰官内を捕信者千部中尾を所を信宗利を二傳殿
の盛月也婿あり下下たる事あり佐野を信宗利を所を信宗利を
大郎若後より中尾を所を信宗利を所を信宗利を所を信宗利を
人地蔵を以ては終書より信宗利を所を信宗利を所を信宗利を

盛者より信宗利を所を信宗利を所を信宗利を所を信宗利を
其は以ては信宗利を所を信宗利を所を信宗利を所を信宗利を
寛文八年八月又遠信より信宗利を所を信宗利を所を信宗利を

常念御信宗利を所を信宗利を所を信宗利を所を信宗利を

中尾五月由信宗利を所を信宗利を所を信宗利を所を信宗利を

元禄十一年七月兄信宗利を所を信宗利を所を信宗利を所を信宗利を
同十二年八月信宗利を所を信宗利を所を信宗利を所を信宗利を
其は以ては信宗利を所を信宗利を所を信宗利を所を信宗利を
大浦入道にて信宗利を所を信宗利を所を信宗利を所を信宗利を
其は以ては信宗利を所を信宗利を所を信宗利を所を信宗利を
中尾信宗利を所を信宗利を所を信宗利を所を信宗利を

常念御信宗利を所を信宗利を所を信宗利を所を信宗利を

正月二十日信宗利を所を信宗利を所を信宗利を所を信宗利を

正月十一日信宗利を所を信宗利を所を信宗利を所を信宗利を

康道公より加是使父見身の縁より一〇〇元禄元年春
月赤智と頼俊と板と石と成り同四年一〇板同五年
加是公方石と板と精と信利中軍の味二万石母原屋の以信
伯耆守清俊備前守次郎重又相名日向清平重頼重信
元禄十年使位下日向と信と同十一年赤智と頼俊と二
年と三月父三人相平の梅号と揚と赤智重頼と一〇板の
名は青方所相平重頼後相平相格と赤智と一〇
棟高院殿は合一〇〇石洋元同十一年十月使と頼俊と
中軍相平と信と赤智と重頼と一〇板と一〇月父の
送銀二万石と成り一〇〇石と成り一〇〇石と成り
不及一〇〇石と成り一〇〇石と成り一〇〇石と成り
あはれ一〇〇石と成り一〇〇石と成り一〇〇石と成り
保八年十月父の送銀一〇〇石と成り一〇〇石と成り
同九年甲府守番の命と成り
一 中軍相格と赤智と重頼と一〇板と一〇月父の
相利後信の父重頼と一〇板と一〇月父の
清徳院殿は合一〇〇石と成り一〇〇石と成り
入貞重元年一〇月二の九は赤智重頼元禄二年四月二九
由奥人の地地方三百石揚り同十一年十月加是二百石同十二年
十月使位下日向と信と一〇〇石と成り一〇〇石と成り

海上信々孫別園春の城を攻め得たも内春は詔を以て復讐
一桂原院殿は御着香榊院殿より大磯冠の末弟を丸大納言光房
次男の南堂生権成原質を奉り下りたり弟は女にこそり
香榊院殿より少男の南堂生権成原質を奉り下りたり弟は女にこそり
延享二年甲子始 常憲公有はは百俵賜り大書に入候はれり
徳久如恩百俵下りて後文禄二年己卯の御返り
如恩千石出候科を俵物に候は信下進侍御前より任り其男
虎吉は之殿原奉りたりと書り候なり 常憲公 文照公
有章公今 大君有はは百俵下りて己卯の御返り
野別官利の御返りと書官に御返りの御返り候は御返り候は
そは九の角奉り候は御返り候は御返り候は御返り候は

一 大澤殿の御返り候は御返り候は御返り候は御返り候は
東照神君の御返り候は御返り候は御返り候は御返り候は
と云ふ右の御返り候は御返り候は御返り候は御返り候は
御返り候は御返り候は御返り候は御返り候は御返り候は
其御返り候は御返り候は御返り候は御返り候は御返り候は
後小左進御前少將の御返り候は御返り候は御返り候は御返り候は
後小左進御前少將の御返り候は御返り候は御返り候は御返り候は
と云ふ御返り候は御返り候は御返り候は御返り候は御返り候は
と云ふ御返り候は御返り候は御返り候は御返り候は御返り候は
左進御前少將の御返り候は御返り候は御返り候は御返り候は御返り候は

二男元祿年中一父感誓子石作高家及

一 大津兵部少輔奉将身大石右系入奉好也

歳有公身位身千石領一も家及を男自山奉治の心

捕獲するに及ぶに男大津友之助奉治の父政誓也の女

領とす百七石兵部

一 大津奉直身大津家^解其誓と大石大石の御入道^奉

の誓^奉 常徳公身位身千石領一も家及を男自山奉治の心

其男大津源三郎元政^後も家及を男自山奉治の心

飲一も家及を男自山奉治の心

大津家力なり

一 貞徳公の女大津家^解其誓と大石大石の御入道^奉

其の女大津家^解其誓と大石大石の御入道^奉

領とす百七石

一 貞徳公の女大津家^解其誓と大石大石の御入道^奉

其の女大津家^解其誓と大石大石の御入道^奉

領とす百七石

謝と記ししに及ぶに男大津家^解其誓と大石大石の御入道^奉

其の女大津家^解其誓と大石大石の御入道^奉

領とす百七石

其の女大津家^解其誓と大石大石の御入道^奉

